

【用語】新町宿―多野郡新町 年季―奉公人の雇用契約期間 深谷宿―埼玉県深谷市 本極院―元禄期頃から新町宿に在住した修験者

【解説】中山道をはじめ主要な街道の宿場には、公用旅行者や一般庶民の休泊施設として本陣・脇本陣・旅籠屋などが設けられた。承応年間の成立とされる中山道新町宿の場合、幕末の天保末年頃には本陣二軒（小林・久保家）、脇本陣一軒（三俣家）、旅籠屋四三軒があった。旅籠屋は一般に平旅籠と飯盛旅籠に区分され、飯盛旅籠とは客に食事などの給仕をする飯盛女（飯売り下女ともいう）を抱えた旅籠のことである。飯盛女は、年齢が十代くらいの女性が家の困窮を理由に年季奉公に出されたものであるが、実際には身売り同然であった。しかし飯盛女のなかには、時に妻や養女として身請けされることもあった。

この文書は、その稀な例の一つで、新町宿の旅籠屋が抱えていた飯盛女かねを養女として縁組みさせた時の証文である。深谷宿出身と思われる「かね」の年齢・年季・身請け人の詳細などは明らかでないが、半年余りの年季が残っていたため、その代金四両を身請け人から受け取っている。なお、各宿場における飯盛女の増加は、宿場の風紀を乱すことになったため、幕府は元文五年（一七四〇）、旅籠屋一軒につき飯盛女二人という制限令を出したが、あまり効果はなかったようである。